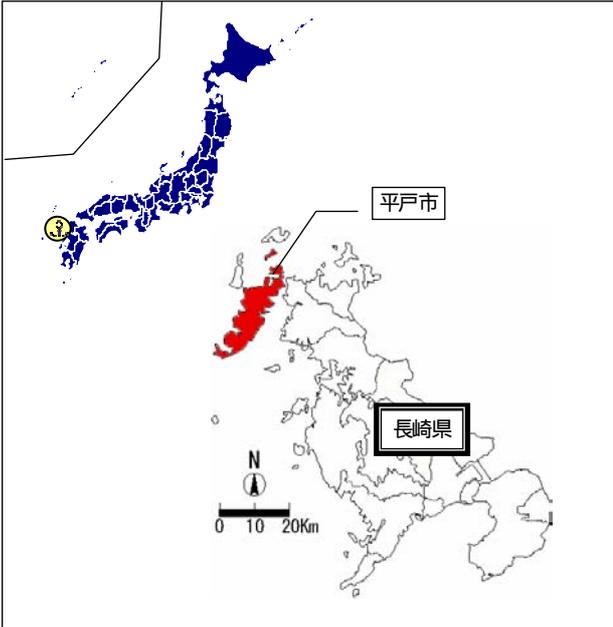
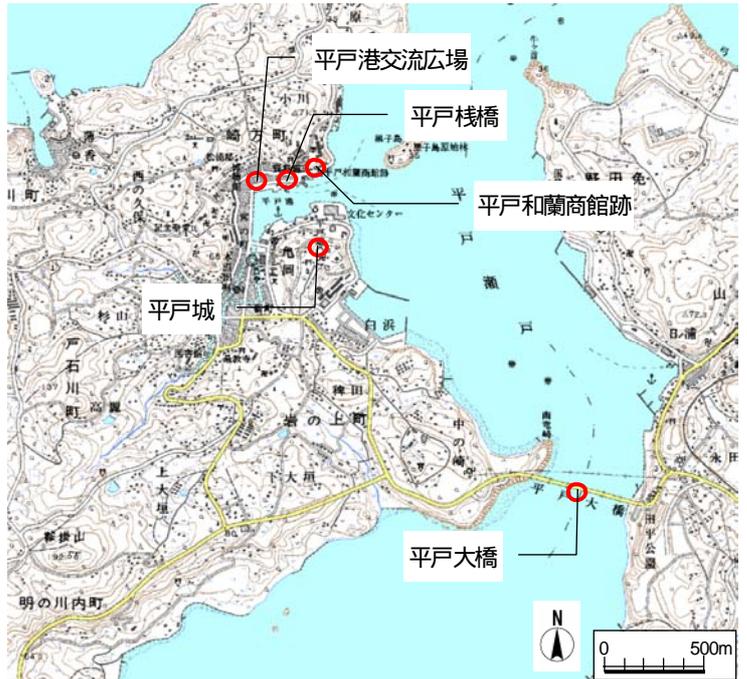


『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(平戸港)



【平戸港の全景】

地域の現状



平戸港（地方港湾）

港湾管理者：長崎県

取組実施市町村：長崎県平戸市

人口：23千人（平成16年3月31日 住民基本台帳）

観光客数：約132万人（平成15年 平戸市調べ）

古代から外交貿易で栄えた歴史あるみなと

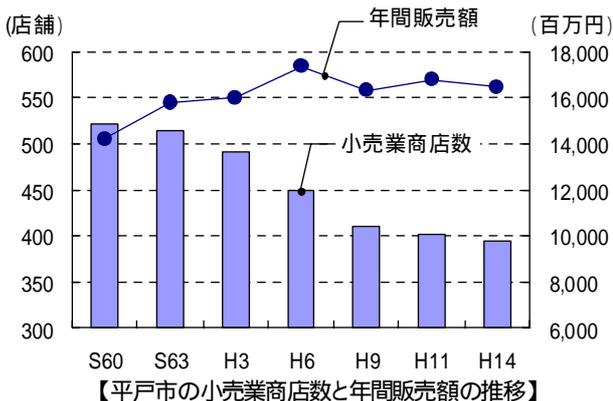
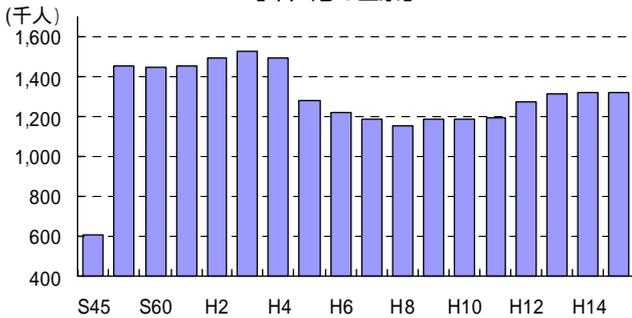
古代から大陸交流の玄関口として地名にも「平たい門戸」の意をもつ「平戸」は、平安時代から中国や朝鮮半島の中継地として、遣隋・遣唐使たちを送り出す最後の寄港地ともなった。

その後、松浦党（水軍）の本拠地となって海外雄飛の拠点となり、八幡船を駆けて日本最初の貿易港の歴史を生み出していた。「南蛮紅毛」船の入港は天文19年（1550）のポルトガルに始まり、スペイン、オランダ、イギリスと続き、港には商館が置かれるなど長崎開港までの92年間、日本唯一の国際港として繁栄の花を咲かせた港である。

現在も多くの史跡、文化財など歴史的資源が多数存在する観光地である。

地域の課題

昭和52年4月平戸大橋の開通により、平戸市の観光入り込み客数は増加し、平成3年のピーク時には150万人を超えた。しかし、その後の社会経済の大きな変化と旅行ニーズの多様化により、平成8年には120万人を下回ったものの、近年は徐々に増加傾向にあり、平成15年は130万人にまで回復してきている。平戸市の基幹産業である観光業と第一次産業（水産・農業）の低迷が地元消費の低下を招き、市街地（商業施設）の空洞化現象も起きている。



『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(平戸港)

みなとまちづくりの目標

「歴史を生かしたみなと再生」によるまちづくり

平戸市が掲げている「歴史を生かしたみなと再生」によるまちづくりを促進することにより、観光客等の交流人口の増大を図り、地元商店街の活性化、地域経済の振興を目標としている。

具体的には、平戸に來訪する観光客、離島フェリー利用者、地元住民等の観光施設利用者が「みなと」から、隣接する観光施設や商店街への流れを創出し、地域の活性化を図るために、既存施設の見直しや未整備地区の整備を促進する。

活用したみなとの資産

平戸港港内景観

平戸城から見下ろすみなとと界隈にはいまでも商家が並び、南蛮文化の香りと城下町の風情が混じって独特な街並みを作り出している。みなと周辺には、国指定文化財の幸橋（オランダ橋）や平戸和蘭商館跡等多くの文化財がある。また、夜には平戸城、平戸大橋、聖フランシスコ・ザビエル記念聖堂などがライトアップされ幻想的な風景を見せている。

海外貿易時代に築かれた護岸施設

平戸港内には南蛮貿易時代に築かれた多くの石積護岸が存在。南蛮貿易時代には、貿易品の積み卸しが盛んに行われ、賑わいを見せていた。

平戸港周辺外港景観

本土と平戸島とを結ぶ平戸大橋は、昭和 52 年に完成。対岸の田平港との間には日本で 6 番目に潮の流れが速い平戸瀬戸航路がある。

平戸港交流広場

古い海運倉庫を撤去して 2000 年に完成した交流広場。イベントやまつりなどで利用する多目的広場、海辺に親しめる親水護岸、駐車場が整備されている。



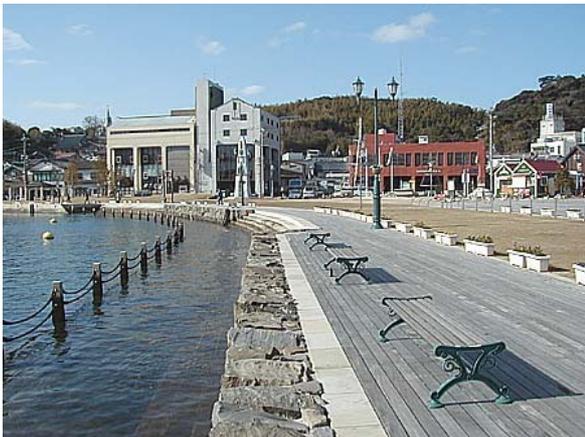
【平戸港夜景】



【平戸大橋とその周辺】



【平戸港史跡護岸】



【平戸港交流広場】

『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(平戸港)

魅せる演出によるみなとを中心としたみなとまちづくり

平戸港みなとまちづくり協議会 (光と炎のフェスティバル実行委員会)

【構成】

- ・平戸港みなとまちづくり協議会
- ・崎方町青年部/崎方町南蛮会
- ・平戸観光協会/平戸商工会議所
- ・その他8団体

【取り組み内容】

- ・事業参画団体の募集及び支援民間団体への協力依頼
- ・会場設営
- ・オープニングイベントの実施・開催
- ・開催期間中の管理運営(メンテナンス等)

支援・協力

光と炎のフェスティバルの開催

取組体制

自治会、法人団体、市民活動団体、民間企業及び行政機関で構成される「平戸港みなとまちづくり協議会」の内部に「光と炎のフェスティバル実行委員会」を設置し、取り組みを行った。

長崎県(港湾管理者)

- ・公有水面使用許可(平戸港内、花火の打ち上げ)
- ・事業広報PR
- ・取り組みへの助言

平戸市

- ・会場施設使用許可(平戸市交流広場、花火とイルミネーションの設置)
- ・会場設置期間内の管理費支援(イルミネーション電気代等)
- ・広報・機関誌掲載
- ・花火打上に関する各関係行政機関との調整

長崎港湾・空港整備事務所(国)

- ・協議会開催時の事業広報PR
- ・取り組みへの助言

【光と炎のフェスティバルの取組体制】

取組概要

平戸港交流広場の冬季時の有効活用策としてイルミネーションによる夜間イベントを開催することにより、民間宿泊施設で取り組んでいるバスツアーによるナイト観光や、市民のナイト散策と連動して、みなと周辺におけるイベントの通年性を創出するために実施した。

実施日：平成16年12月24日～17年2月13日

イルミネーション等の夜間点灯は自動点灯～PM10:00

場所：平戸港交流広場

オープン：平成16年12月24日

オープニングセレモニーの実施、港内花火打ち上げ

来訪者数：2,550人(オープン時約300人含む)

地元の意識も高く、今後の活用の可能性が確認された

取組の成果

- イルミネーション作品募集に民間8団体からの積極的な応募があった。
- 製作から展示期間中の管理に至るまで地元町内会からの支援協力があるなど、事業に対する関心が高かった。
- また、夜間時の港へのナイト散策者も多く見かけるようになり、その効果は期間を通して高いものがあった。
- 港湾内水面において花火を上げることの可能性が確認され、本港広場を使つての各種イベントや商店街イベント等で活用することの可能性が確認できた。



光と炎のフェスティバル会場

【光と炎のフェスティバル開催場所】



【港内での打ち上げ花火】



【オープニングセレモニー/社中ジュニア】

『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(平戸港)

波棚(なだな)のプロムナード

取組体制

「平戸港みなとまちづくり協議会」の内部に「波棚(なだな)のプロムナード実行委員会」を設置し、取り組みを行った。

平戸港みなとまちづくり協議会 波棚のプロムナード実行委員会

【構成】

- ・平戸港みなとまちづくり協議会
- ・崎方町青年部 / 崎方町南蛮会
- ・平戸観光協会 / 平戸商工会議所

【取り組み内容】

- ・地域住民への事業説明及び敷地利用協力依頼
- ・関係行政機関への事前協議
- ・住民関係機関への情報提供
- ・オープニングイベント実施と管理運営

支援・協力

長崎県(港湾管理者)

- ・目的外使用許可
- ・事業広報PR
- ・取り組みへの助言

文化庁(国)

- ・文化財護岸の現状変更許可
(用地上部に歩行板を設置(プロムナード化))

平戸市

- ・広報・機関誌掲載
- ・情報提供
- ・資材調達協力
- ・オープンカフェ利用の保健所との協議
- ・関係行政機関との調整

長崎港湾・空港整備事務所(国)

- ・事業広報PR
- ・取り組みへの助言

【波棚のプロムナードの取組体制】



【波棚(なだな)のプロムナード全景】

取組概要

港周辺の観光施設や市街地への新しい動線の必要性を検証するため、南蛮貿易時代に貿易品の積み卸しをしていたオランダ埠頭(平戸和蘭商館跡の一部)の海岸線(石積護岸 L=36m)を利用して仮設プロムナードを設置した。また、水産加工物である平戸特産品の干物をつくる「波棚(なだな)」に隣接させることで、旅情感漂う風景の創出も図った。

実施日:平成17年1月30日(～撤去日まで)

場所:崎方町地先

施設:平戸和蘭商館跡(第一種史跡)

新たなスポットの誕生と地元管理運営体制の確立

取組の成果

- 本事業の取り組みは地元住民と民間業者の積極的な協力もあり、1月30日の開設以来、**海岸線の新たなスポットとして1日平均10~20名程度の利用者が見られる。**
- また、隣接している民間観光資料展示館の再オープン検討や波棚を利用した隣接飲食店(3店予定)による**オープンカフェとしての利用が近々実施されることとなり、今後は更に利用者の増加が見込まれる。**
- 仮設物の期間内管理についても**地元による管理運営を行う体制が整いつつある。**



【波棚(なだな)利用状況】

『歴史・文化』を活用したみなとまちづくり(平戸港)

平戸港みなとまちづくり協議会
洋上シンポジウム / 海から平戸への海道
実行委員会

【構成】

- ・平戸港みなとまちづくり協議会
- ・平戸観光協会
- ・民間(運輸会社・ホテル)

【取り組み内容】

- ・フェリー運航依頼
- ・こども絵画作品依頼
- ・平戸港古写真提供依頼
- ・会場使用依頼
- ・作品展示撤去
- ・情報PR活動
- ・アンケート調査集計
- ・開催日進行

← 支援・協力

海から平戸への海道体験と洋上シンポジウムの開催

取組体制

「平戸港みなとまちづくり協議会」の内部に「洋上シンポジウム / 海から平戸への海道実行委員会」を設置し、取り組みを行った。

長崎県(港湾管理者)

- ・事業広報PR
- ・取り組みへの助言

平戸市

- ・施設使用許可(離島航路用の浮桟橋へのフェリー係留)

長崎港湾・空港整備事務所(国)

- ・事業視察参加
- ・取り組みへの助言

【海道体験等の取組体制】

取組概要

海から平戸への海道(フェリー試験運航)と洋上視察
平戸らしい旅情感、忘れかけていた海やみなとのすばらしさを再認識するため、橋が架かる前の主要交通手段であったフェリーを試験的に運航し、観光客や一般市民の体験乗船を行った。

平戸港古写真展 / こども絵画展

隆盛期の平戸港を収めた「古写真展」及び将来を担う子供達に「みなと」に関心をもってもらうための「こども絵画展」を開催し、住民のみなどに対する意識の高揚を図った。

洋上シンポジウム

一般市民、事業参加団体及び協議会関係者等の参加する洋上シンポジウムを開催し、平戸港の現状と今後について懇談を行った。



【フェリー試験運航】



【平戸港古写真展】



【洋上シンポジウム】

海から平戸への海道(フェリー試験運航)と洋上視察

実施日:平成17年2月13日

場所:平戸港~田平港~平戸沿岸~平戸港

乗船者数:一般市民 60名 / 観光客 71名

船内アナウンスを行い乗船者(観光客・一般市民)へのサービスは、NPO団体「平戸観光ウェルカムガイド」が協力・実施

平戸港古写真展 / こども絵画展

平戸港古写真展

実施日:平成17年1月17日~17年2月20日

場所:平戸市港湾ターミナルビル内

期間外は商店街商店等に展示

こども絵画展

実施日:平成17年1月17日~17年2月28日

場所:平戸市港湾ターミナルビル内 / 平戸市役所玄関ロビー

洋上シンポジウム

実施日:平成17年2月13日

場所:平戸市社会福祉協議会会議室

出席者:20名

表彰者:12名

好評だったクルージング

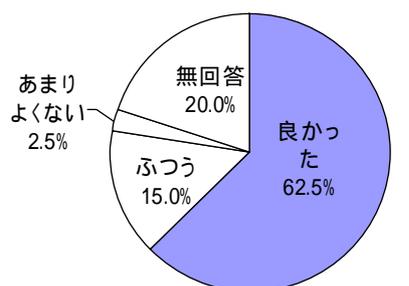
取組の成果

(観光客アンケート)

- フェリーを利用した港からの平戸入りは、大半の観光客から好評であった。特に船上アナウンスで平戸の歴史を学び、ロマンを抱きながらの平戸来訪に多くの観光客から大きな反応を得ることができた。
- 利用料金設定については、平均して300円前後の料金希望が多いようである。

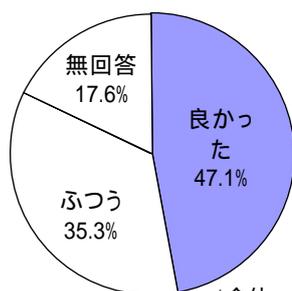
(一般市民アンケート)

- 一般市民の大半は、洋上から平戸を見る機会も少なく、今回、乗船して平戸港周辺の景観のすばらしさを見ることができ、好評であった。
- しかし、ほとんどの人が「平戸港を平戸の玄関口として認識できない」と回答し、「港の美観性、昔なつかしいという雰囲気伝わってこない」等の理由が指摘された。
- その改善点として、市民参加型のアイデアの創出、施設整備の充実、外来船(観光船・ヨット・プレジャーボート)対応の整備などがあげられた。



(全体 = 80人)

【平戸港に入港した印象(観光客)】



(全体 = 34人)

【平戸港に入港した印象(一般市民)】

今後のみなとまちづくりの取り組みへ

観光業界との連携でフェリー運航の実現へ

フェリー運航の取り組みは、観光客や一般乗船者から大好評であったことから、地元観光業界の新たな観光施策とするため、今後、関係団体と情報交換・連携を図り、積極的に実現に向けて協議を行っていく。

「波棚のプロムナード」の地元管理運営体制の整備

隣接の民間観光資料展示館の再オープン検討や飲食店によるオープンカフェの実施が近々予定されており、利用者の増加が見込まれることから、地元による施設の管理運営体制を整えていく。

新たな海辺の動線を確保へ

護岸敷に設置した仮設プロムナードのオープンカフェの利用や民間観光施設と連動した新たな観光ルートとしての利用を図るとともに、年間を通じた施設利用者へのアンケート調査を実施することで、新たな海辺の動線の必要性を検証し、今後の施設整備につなげる。

Column リーダーに聞く!

❖ 取り組みで苦労した点は?

2000年の平戸港交流広場の整備事業に先立ち、みなとの活用の議論はかなり行われてきていました。平戸オランダ商館の復元事業が進むなか、みなとの活用は大きなテーマであり、これまでも産業まつり等の取り組みが頻繁に行われていました。今回の取り組みでは、実施に至る時間が不足気味であったことに尽きますが、それぞれの担当者の努力でなんとか乗り越えることができましたと思います。

❖ 今後の『みなとまちづくり』の期待

平戸は、港町として栄えてきた長い時間を忘れてはいけなく、港を中心とした特に人の動線を新しくできたらいいと思う。さらに、より若い人たちが関わり、関わる中で人が育っていくことを期待していきたい。



平戸文化協会:町田雅之氏